

MOON

- » 一貫性を持ったmonorepo管理ツール for JavaScript
- » ハッシュを使ったファイルキャッシュ
- » プロジェクトのパッケージ間の依存関係の分析とタスク実行
- » Node.js/npmパッケージマネージャーのバージョン管理と一貫性
- » TypeScriptのProject Referendcesの一貫性

比較

- » Nx: The Framework + Pluginで拡張する
 - » Lerna: Nx傘下、ライブラリ向け
- » Turborepo: タスク実行の最適化をする
- » moon: monorepoでの一貫性を提供する
 - » Packemon: moonと同じ作者。ESM/CJSのライブラリ向け

比較(言語)

- » Nx: TypeScript + C++
- » Turborepo: GoLang
- » moon: Rust

MOON

- » 将来的なカバー範囲の予想
- » Moonでは、Remote caching/分散ビルドはこれから

MIDINの特徴

» 一貫性

MINOSTRUCTURE

- » Workspace: monorepoのルートのこと
 - » チーム開発なら1つのチームがいるスペース
 - » WorkspaceのNodeやパッケージマネージャーの環境を統一できる
- » Project: 各Packagesのこと
 - » client/server/commonみたいなパッケージなど
 - » Project間の依存関係を管理して、常に同期できる



Workspace (workspace.yml)

Project (ts)

project.yml

Project (js)

Project (bash)

project.yml

MOUN 使い方のイメージ1

- » .moon/workspace.ymlにワークスペースの設定を定義する
 - » どのディレクトリをProjectにするか
 - » Node/npm/TypeScript/VSC(git)などの共通設定
- » .moon/project.ymlにプロジェクトの共通タスクを定義する
 - » npm run-scriptからmigrateもできる
- » <プロジェクト>/project.ymlにプロジェクト固有のタスクを設定する

◇MUUN使い方のイメージ2

- » moon run <プロジェクト名>:<タスク名> でタスクを実行できる
 - » clientのbuildを実行するならmoon run client:build
 - » moon run :build で全てのプロジェクトのbuildを実行できる (lerna run <script>相当)
- » 実行するタスクとそのプロジェクトがものは自動で実行される
 - » プロジェクト(dependsOn)とタスク(deps)に依存を定義できる
 - » タスクの入力ファイルと出力ファイルに関しても依存を定義できる

MUUN使い方のイメージ3

- » moon run でタスクを実行する前に、workspaceの定義と実行してる環境が一致するかをチェックしてる
 - » 一致してないなら環境を一致させるmoon syncが自動的に叩かれる
 - » Node/npmのバージョン、TSのProject Referencesの依存関係、ローカルのキャッシュの状態などが意識せずに合うように同期される
 - » チーム開発での環境のばらつきが抑えられて一貫性が保てる

MIDINの特徴

- » 意識しなくても常にmoon syncが行われている
 - » workspaceのNode.jsやnpmのバージョンを変更したら、自動的 にバイナリがダウンロードされる
 - » workspaceにprojectを増やしたら、TSのProject Referencesが自動的に更新される
- » チーム開発で「変更入れたので、ローカルでこのコマンド実行しておいてください」みたいのが減る

のMOONの面白いポイント

- » moon ciというCI向けのコマンドが用意されている
 - » Continuous integration | moon
- » project.ymlのタスクの定義に基づき、自動的にタスクが実行される
 - » タスク側に runInCI: false となければとりあえず実行される



PACKEMON

- » omoonと作者は同じ
- » ESM/CJSのdual packageに対応したライブラリを公開する用途の bundler/build tool
 - » Babel/rollupをいい感じにまとめて、package.jsonの設定も 自動的に修正される

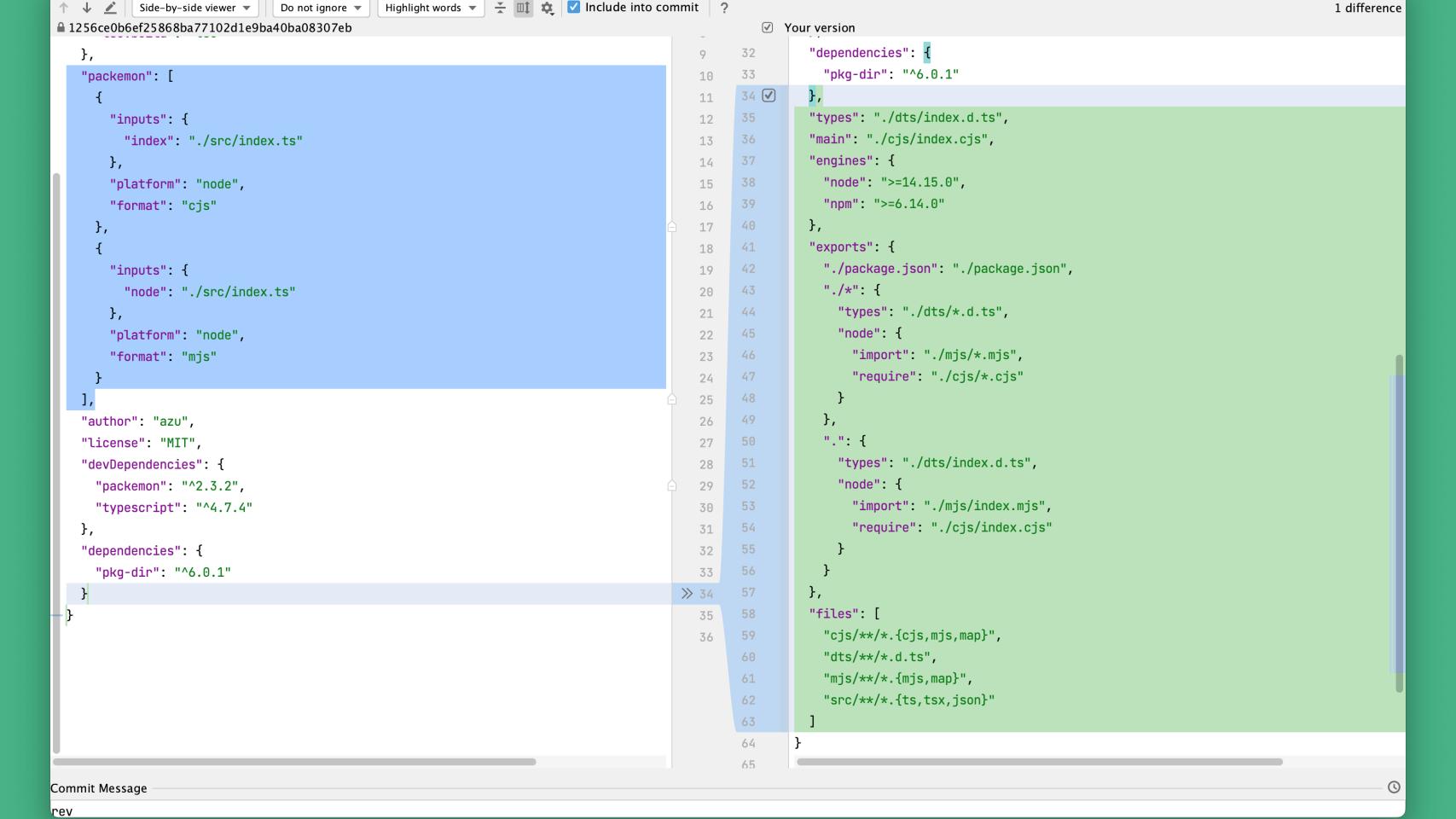
PACKEMONの特徴

- » package.jsonのpackemonフィールドに出力形式を設定する と
- » → 自動的に main/exports/types/type/enginesなど公開する ための設定が追加される

```
"packemon": [
    "inputs": {
      "index": "./src/index.ts"
    "platform": "node",
    "format": "cjs"
    "inputs": {
      "node": "./src/index.ts"
    "platform": "node",
    "format": "mjs"
```

追加される

```
"types": "./dts/index.d.ts",
"main": "./cjs/index.cjs",
"engines": {
 "node": ">=14.15.0",
 "npm": ">=6.14.0"
"exports": {
 "./package.json": "./package.json",
 "./*": {
   "types": "./dts/*.d.ts",
   "node": {
     "import": "./mjs/*.mjs",
     "require": "./cjs/*.cjs"
   "types": "./dts/index.d.ts",
   "node": {
     "import": "./mjs/index.mjs",
     "require": "./cjs/index.cjs"
"files": [
 "cjs/**/*.{cjs,mjs,map}",
 "dts/**/*.d.ts",
 "mjs/**/*.{mjs,map}",
 "src/**/*.{ts,tsx,json}"
```



PACKEMON: その他

- » Babelを使ったCJS <-> MJSのinterop変換が実装されている
 - » Features & optimizations | Packemon
- » index-wrapper.mjsというCJSをMJSとしてラップして、Dual package hazardを回避時する実装も持っている
 - » requireとimportで別のファイルを読み込むと、insteanceof がコケる問題の回避

作ったもの

- » azu/file-cache: Node.js library that provide a cache for file metadata or file content.
 - » moonとPackemonを使い、MJSとCJSのdual packageとして 公開している

まとめ

- » ⊚ moon と Packemon
 - » どちらもあまり意識せずに設定の同期などの一貫性を保ち、間違い を減らしてくれる
 - » 一方で、抜け穴的な回避策が狭くなるので、理想と現実のギャップをどこまで埋められるかが体験に響きやすい
 - » どちらもかなり現実のユースケースから作られていて、違和感がある動作は少ない(ただ、バグはまだある)